



## ハミング通信 015 号

いつもご利用いただきありがとうございます。今回は「自然栽培がブームで終わらない理由」について書かせていただきます。近年、欧米では、オーガニック愛好者がどんどん増えて、普及率は「10%も間近」と言う国もあるくらい。日本はどうかと言うと2017年のデータはまだ手元にありませんが、聞いた話によると0.26%くらいだそうです。1%にも満たないわけです。でも僕は、そこに自然栽培などの自然農法の数字を入れると、1%位にはなるんじゃないかと思っています。オーガニックではないけれど、自然派の農業を営んでいる農家さんが、オーガニックの3~4倍いるのではないかということです。最近は特に、新規就農する若い世代に、自然栽培を目指す農家さんが増えてきています。いったいどうしてでしょうか。それは、若い世代が、自然農法でなければならない**明確な理由**を持って、自然農法を選択しているからで、「なんとなく自然農法がいい」なんていう人はいないでしょう。欧米と日本のオーガニックの法律を比較したとき、一番大きな違いは「遺伝子組み換え飼料を食べた畜産堆肥」を有機肥料として認めるかどうか。一言でいうと肥料の基準が違うのです。欧米の有機の基準では、こうした肥料は有機として使えない。ということになっています。一方、日本の有機の基準では、こうした肥料も使用できることになっています。実際のところ輸入畜産飼料の9割は、遺伝子組み換え飼料でしょうから、これを日本の有機の法律の対象にしてしまったら、使える肥料がなくなって農家さんは困るでしょうし、アメリカもトウモロコシの輸出が減るし、それでは困るわけです。今はインターネットの時代です。こうした背景も、若い世代の新規就農者や消費者は知っているのです。まして、オーガニックの主な利用者層は知識層です。このポイントを見逃すわけがありません。遺伝子組み換え飼料を嫌った人たちが、徐々に自然農法の作物に向いてきているのです。お金のためだけでなく、本当にやりたいことを実現するために農家になる。いま、そんな若者が増えています。彼らの、自然農を選ぶ理由の中に、未来のヒントがある。作る人も増えているし、買う人も増えている。「やっぱり自然のものが一番いいよね」そういう時代の声が、だんだん大きくなってきているのだと思います。生産者さんも大事、理解してくださる生活者の皆さんも大事。両方の人達が同じ方向に向かっているから、日本の食が変わろうとしている。素晴らしいことだと思います。有機先進国でも、普及率1%を超えたところから、急激に普及が加速したという歴史があるそうです。これから日本もどんどん変わる、おいしい野菜がもっともっと食卓に並ぶようになるといいですね！

ハミングバード主宰 近藤正樹